

地域滞在型  
観光等推進

# 体験・交流を展開

## 初のモニターツアー開始

関東中心に  
20人來島 市がモデルづくりで



二〇〇七年度「健康長寿社会の実現に向けた地域滞在型観光等の推進方策に関する調査」のモデル地区となっている宮古島市でのモニターツアーが二十日、はじまった。関東を中心にツアー客とスタッフら二十人が宮古入りし、二十三日までの期間、農作業や三味線、陶芸などの体験や文化財巡り、地元との交流に挑む。事業主体の同市（伊志嶺市長）は、ツアーを通して「健康・長寿社会」を目指した地域滞在型観光の新たな観光分野の開拓と展開を促進するため、モニターアンケートなどを踏まえ、今後のプログラム開発に生かす方針だ。

調査は、国土交通・厚生労働両省が中心となって実施しているもので、モデル地区は宮古島をはじめ北海道十勝町、新潟県長岡市、長野県木島平村、広島県三原市の全国五地区。

事業は、健康・生きがい・趣味への充実に一役を担い、地域が持つ自然環境や特徴的な風土と景観、伝統的な文化、自然と共生する暮らしなどを通し、健康長寿社会の実現に向け新たな観光分野の開拓と展開を促進することを目的としている。

モニター調査で宮古入りした一行は、宮古空港ロビー

洲鎌隆沖縄観光コンベンションビューロー（常務）を設置し、友好都市の東京都世田谷区、都老人総合研究所、地元NPOと連携し、認知症予防のための旅行プログラムの開発・促進とともに、地域特有の環境や資源、文化を活用した滞在型観光の推進する取り組みを展開している。

二十日正午過ぎ、那覇から宮古入りした一行の歓迎式が宮古空港ロビーで行われた。伊志嶺市長は、「今回のツアーは体験滞在型を模索するもの。農作業や三味線などを体験してリフレッシュしてほしい」と述べ、一行を歓迎するとともに事業効果に期待した。

ツアーについて都老人総合研究所の平野貴大研究員は、「交流を通じて都民の認知症予防に向け、何回か実施していきたい」との見解を示した。また、世田谷認知症予防活動交流会事務局の沖慎一さん（76）は、「ツアーで互いの心のつながりあいを楽しみにしている。体験には興味を持っている。また、これを機会に沖縄本島と宮古の違いを確かめたい」と語った。

参加者らは二十三日までの期間中、民宿や農家に宿泊し、農作業をはじめ三味線や貝細工、陶芸、郷土料理づくりの体験、さらには地下ダム資料館、上比屋遺跡、来間島、博物館などの見学に臨む。また、それぞれがコース設定した観光などを行う予定。

新築・増改築のプランは当社で  
プロパンガス・住宅設備機器・ガス器具販売  
安心と信頼のパートナー ライフクリエイティブ企業  
株式会社 **りゅうせきエネプロ**  
☎(0980)72-3232 (旧宮古燃料)

1月21日 日曜日  
2008年（平成20年）  
発行所  
**宮古新報社**  
沖縄県宮古島市平良字西里333-1  
郵便番号906-0012  
代表・(0980)73-1212  
FAX・(0980)73-1811  
e-mail:m-shinpo@ryucom.ne.jp

# 宮古新報

第13668号 (日刊) © 宮古新報社 2008年